

# SRID 活動報告

## SRID キャリア開発事業の紹介

鈴木 博明

SRID キャリア開発事業実行委員長

SRID は 2016 年から、国連機関や国際開発金融機関等の国際開発関係機関での就業を目指す人々を支援するため、キャリア開発事業を実施しています。SRID はフォーラム及び懇談会の開催やジャーナルの発行を通じて国際開発に関する知見を発信していますが、キャリア開発事業は、国際開発分野の人材育成に焦点を絞った社会貢献活動といえます。SRID の設立 50 周年を迎え、まだ発展途上にあるキャリア開発事業のこれまでの歩み・成果・今後の課題への対応をまとめてみました。

### 1. キャリア開発事業の経緯、目的、実施体制

SRID が設立 40 周年を迎えた 2014 年頃、幹事会で新事業の議論がありました。その議論の結果、藤村健夫会員が提案した、「国際開発協力分野の専門家である SRID 会員の実践的知識と経験等を国際開発業務に携わることがを希望する意欲ある者に共有し、彼らの問題意識とスキルを高め、その将来に向けたキャリア開発に貢献すること」（SRID キャリア開発事業運営規約第 1 条）を目的とするキャリア開発事業が 2016 年度の総会で承認されました。同事業が開始された背景には、多くの SRID 会員が：(i) 日本は、国際機関に対する出資、拠出等の多大な貢献をしているが、日本人職員は少なく、人的・知的な貢献度が少ないため、国際社会での評価は低い；また (ii) 国際平和・政治・持続可能な開発問題（特に貧困撲滅・ジェンダー平等）に加え、生物多様性の維持・気候変動対策・感染症対策等の国際公共財の課題の解決に重要な役割を果たす国際機関に、日本人職員が少ない事は日本の国益に反する、と認識していたからだと思われます。

そして、キャリア開発事業運営規約が作成され、キャリア開発事業運営委員会が設置されました。キャリア開発事業は、その事業運営規約に基づき独立採算を志向し、研修の受講料、大来佐武郎特別基金<sup>1</sup>および会員が提供する無償のボランティア貢献で運営されています。運営委員を含む十数名の会員が講師として事業に参加しています。SRID 会員の多くは、国際機関・日本の国際開発関係機関・開発コンサルタント企業等に於ける経験を通じて得られた、国際開発協力に関する豊富な知見を持っています。表 1 は 2024 年 3 月 31 日時点での SRID 会員が経験した国際開発関係機関の内訳を示しており、国連本部・国連機関及び OECD が 18 名、国際開発金融機関が 16 名、日本の国際開発関係機関が 22 名、開発コンサルタント企

---

<sup>1</sup> 1993 年に逝去された、SRID 初代会長大来佐武郎氏のご家族からの寄付に基づき設立された基金で、SRID の目的に相応しい活動を支援することに使われ、キャリア開発事業は、2016 年度から 2024 年度にかけ、同基金の支援を受けています。最も支出が大きい国際開発プロフェッショナル研修（IDPC）は受講料を徴収し、不足分は講師のボランティア貢献で補われている他、大半の事業がオンラインで実施されているため、会場費や交通費等の支出が少なく、大来佐武郎特別基金からの支援は 2020 年度から 2023 年度の 3 年間で 5 万円と非常に少額となっています。

業が 17 名となっています。SRID のキャリア開発事業の強みは、これらの国際開発協力の専門家が実務経験に基づいた知見をカウンセリングや研修を通じて受講者と共有していることです。

表 1 SRID の会員が経験している国際開発関係機関 (2024 年 3 月 31 日時点)

国連本部, 国連機関及び OECD	国際開発金融機関	日本の国際開発関係機関	開発コンサルタント企業
国連本部 4	ADB 3	JICA 17 (OECF を含む)	
ESCAP 1	AfDB 1	JBIC 3	
FAO 1	EBRD 1	FACID 2	
IFAD 1	IDB 1		
ILO 2	WB 7, IFC 3		
UNDP 3			
UNEP 1			
UNHABITAT 1			
UNIDO 1			
WFP 1			
OECD 2			
合計 18	合計 16	合計 22	合計 17
総計 73			

備考：会員が複数の国際開発関係機関を経験している場合は、全ての国際開発関係機関を計上しています。

## 2. 活動内容と実施状況

キャリア開発事業ではカウンセリング・研修・懇談会・広報活動を行っており、表 2 は各活動の実績を示しています。2016 年度に事業を開始して以来、2023 年度末までに、総計 1,629 名の受講者を対象として 224 件の活動を実施しました。

表 2 キャリア開発事業実績 (2016～2023 年度)

活動	2016		2017		2018		2019		2020		2021		2022		2023		合計	
	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数	件数	受講者数
カウンセリング	10	10	18	20	18	22	7	15	18	19	28	28	26	26	15	15	140	155
研修・懇談会																		
(1) 学生団体等との連携協力	1	27	4	30	5	34	3	32	終了								13	123
17(2) 出張講座	6	73	18	366	23	427	12	193	3	52	1	11	0	0	0	0	63	1,122
(3) 国際開発プロフェッショナル研修 (IDPC)	事業開始 2021 年度										1	13	2	19	1	21	4	53
(4) 国際開発分野で働く女性のためのフォーラム	事業開始 2021 年度										1	130	2	16	1	30	4	176
合計	17	110	40	416	46	483	22	240	21	71	31	182	30	61	17	66	224	1,629
広報活動																		
(1) ロスター登録者数 (累積)	事業開始 2021 年度											31		47		78		78
(2) 『SRID キャリア開発』発行	事業開始 2021 年度										2		2		2		6	

各活動の概要は以下の通りです。

## 2-1 カウンセリング

無料カウンセリングは、事業開始以来一貫して提供されている事業のバックボーン的な活動です。相談内容は、開発の仕事に携わりたいがどのような選択肢があり、留学も含め、どのようなことを学び、どのように実務経験を積む必要があるかというキャリア形成全般に関わるものから、特定の国際機関のポジションに応募するにあたり、応募書類や CV の作成、コンピテンシー・インタビューの準備の仕方や心得に関するアドバイス、また採用後のキャリア形成に関わるものまで多岐にわたります。受講者の志望先と専門分野を考慮し、講師を選定しています。講師は個人のボランティアとしてキャリア開発事業に参加していますので、受講者は組織のしがらみに気兼ねすることなく本音ベースで相談することができます。

### ボックス1 カウンセリングを受けた受講者の声

#### Aさんのケース（海外大学院卒業、就活中）

面接・履歴書対策について具体的な重点ポイントをテクニックと共に説明して頂いた。すぐに役に立つアドバイスで助かった。国際開発協力の仕事は他の業界とは異なる面が多い。実際の経験を基にしたアドバイスは参考になった。私の葛藤や迷いについての質問に答えて頂いたことが、カウンセリングの中で一番貴重だった。（言語や地域を絞るべきか、途上国と先進国どちらで勤務すべきか、どの順番でキャリアを積むべきか、治安の悪い国を避けるべきか、etc.）私の経歴について、客観的なコメントを頂いたので参考になった。

#### Bさんのケース（開発途上国出身、日本の大学院の博士課程在籍、これまでの仕事の経験と研究を生かせる職種を検討中）

It gave me broader understanding about career options in Multilateral Development Banks (MDBs), and at the same time I could understand specifically what positions I will fit in. I find that the discussed position can accommodate both my professional experience and educational background, as well as my personal interest. I am excited to pursue this kind of career opportunity in the future. Again, thank you very much for your valuable information, insights, and suggestions. I really appreciate it.

#### Cさんのケース（開発途上国でNGO勤務、国連機関転職希望）

丁寧にCVの添削指導いただき本当にありがとうございます。頂いたアドバイスをもとに清書いたしました。今回いただいたアドバイスのおかげで、ただ単に自分がOOができるXXに精通していると述べるだけでなく、具体例や具体手法を簡潔に記載することによって、自分の主張を説得力のあるものに変えることができることをプラクティカルに学ばせていただきました。お忙しい中にも関わらず本当にありがとうございます！

## 2-2 研修・懇談会

受講者グループの特性やキャリア目標を考慮し、研修と懇談会を企画・実施しています。キャリア開発事業の初期には、学生団体からの要請を受けた特定の課題に関する研修が行われましたが、2021年以降は公募による国際開発プロフェッショナル研修（IDPC）が主要な研修事業となっています。

## 2-2-1 国際開発プロフェッショナル研修 (International Development Professional Course, or IDPC)

2-2-1-1 IDPCの概要および特色 UNICEF, UNDP 等の国連機関及び世銀や ADB 等の国際開発金融機関での就業を目指す人々を対象にした、公募ベースの IDPC を提供しています。IDPC は、国際機関の基本的な業務や人事制度に関する理解を深めることを目的としています。研修内容は、どの国際機関でも必要となる国別計画の策定、プロジェクト・サイクル・マネジメント、多国籍・多文化構成のチーム内のチームワーク・マネジメント手法、国際機関の採用・人事制度および受講者のキャリア形成プラン等です。IDPC は、キャリア開発事業の中では唯一受講料<sup>2</sup>を徴収して実施されています。これは、キャリア開発事業を出来る限り独立採算で行うという事業運営規約の方針に基づいていることと、IDPC に真剣に取り組む覚悟を持った受講者を募集するためです。IDPC の特色は以下の通りです：

- 国連機関や国際開発金融機関の経験者によって、英語で行われます。
- Zoom を使用して行われ、インターネットのアクセスさえあれば、世界中どこからでも参加できます。
- 少人数グループで講義と演習が行われ、国際機関の特定のケースを取り上げ、国際機関の業務書類を教材として使用します。
- 人事関連セッションでは、国際機関の職員が各機関の採用・人事制度の説明を行い、模擬面接が実施され、専門家からのフィードバックが与えられます。
- 国際機関の現役職員との Q&A セッションを通じ、受講者の関心事項について情報及びアドバイスを得ることができます。
- 開発途上国の受講者も受け入れ、多国籍職員が英語で仕事をする国際機関の疑似職場環境を創り出し、開発途上国の視点を講義・演習の議論に反映させています。
- 社会人の受講者でも対応できる範囲の教材を、明確な指示を付けて事前配布しています。
- 体調不良、緊急業務等予期せぬ事情のため、講義に参加できなかった場合は録画を視聴することができます。
- 希望する受講者は、研修後にキャリアカウン・セリングを受けることができます。

これまで開催された4回の IDPC の概要は表3の通りです。詳細については各報告書をご覧ください。

表3 IDPCの概要

IDPC	第1回	第2回	第3回	第4回
開催日	2021/6/10、6/19	2022/10/8、10/15	2022/12/3、12/10	2024/1/13、1/20
参加者数	13	8	11	21
対象国際機関	国連、世銀	国連	国連	国際開発金融機関

<sup>2</sup> 受講料の用途は、直接経費（講師謝金、IT 補助者の雇用費）及び準備及び管理費（企画、募集、受講料入金管理、教材配信、国際機関への協力依頼・調整、評価、決算、報告書の作成等）です。受講料収入から直接経費を支払った後、余剰分を準備及び管理費に充当しますが、受講料でカバーできている部分は2割ほどで、大半は SRID のコース・マネージャーのボランティア・サービスで賄われています。

特記事項	「国の開発戦略」、「プロジェクト・マネジメント」及び「人事制度」の三つの主要テーマの確立。模擬面接の導入	国連システム元国際公務員日本協会 (AFICS Japan) の協力、国連開発計画 (UNDP) 駐日代表事務所の後援。各受講者はキャリア開発計画を作成。	国際協力を考え、活動することを目的とした NGO、国際協力サロンの依頼に基づいて開催。国連機関 (UNICEF、IFAD) 及び世界銀行の現役スタッフに参加してもらい、受講者の質問に答える Q&A セッションを導入。	ADB、世銀、(人事セッション)、EBRD (導入セッション) の職員の参加。開発途上国の受講者の受け入れ。
報告書リンク	<a href="#">IDPCNo1 報告書</a>	<a href="#">IDPCNo2 報告書</a>	<a href="#">IDPCNo3 報告書</a>	<a href="#">IDPCNo4 報告書</a>

## 2-2-1-2 評価とフィードバック

4 回の IDPC の総合評価は、平均で全受講者の 46%が Excellent、44%が Very Good と、90%の受講者が高い評価を与えています (表 4)。課題としては、2 日間にわたるオンラインによる密度の高い研修であるため、集中力を持続することが難しいことが指摘されています。今後は、休憩時間を長くする、レクチャーを短くし、質疑応答と議論の時間を増やす、動画を活用するなどの対策を取る予定です。

表 4 受講者による IDPC の総合評価

IDPC	参加者数	Excellent %	Very Good %	計 %
第 1 回	13	45.5	54.5	100
第 2 回	8	14.3	57.1	71.4
第 3 回	11	56.6	44.4	100
第 4 回	21	67	19	86
平均	13.3	45.9	43.8	90

## ボックス 2 IDPC 受講者のフィードバック

- 国際開発金融機関 で働かれた経験のある方から生の知見をお聞き出来たこと。特にベトナムとフィリピンのケース・スタディでは、その国特有の特性や課題を学びながら、簡易ながらも解決策を思案する過程を学ぶことができ、国際開発金融機関の役割を理解するために非常に貴重な機会をいただきました。また、全ての講義を通して、国際開発金融機関で働かれた経験のある方と質問を交えたインタラクティブ形式でやり取りをできたこと自体が、国際開発金融機関で働くとはどういうことかをイメージする上で大変貴重でした。
- Mock interview is particularly useful for me. This pushed me to do a lot of preparation in advance, understood what kind of questions HR may be interested to know, and also gave me confidence for my MDB application.
- 民間に就職することを控える身として、どういう専門性を身に着けるべきか、そしてその先にどういった選択肢があるのかを様々な観点から考えることができたこと、非常に有益でした。
- 全体の構成や内容はとても満足でした。特に、現役職員の方々のセッションはすぐに役立ちそうな内容も多く、とても勉強になりました。これはしょうがないことではあるのですが、研修時間がどうしても長くなってしまったため、少し集中力が続かない場面もありました。事前録画などは非常に効率良く感じたので、もう少し他のレクチャーも同様の事前録画形式にもできる可能性はあるかとも思いました。Overall では本当に満足しております。ありがとうございました！

**2-2-1-3 今後の IDPC 開催予定** 次回の IDPC は、国連機関と国際開発金融機関志望者両方を対象とし、2025 年に実施する予定です。参加に興味のある方は、career@sridonline.org にご連絡ください。実施要領が出来次第、ご案内いたします。

## 2-2-2 国際開発分野で働く女性のためのフォーラム

「ジェンダーと開発」というテーマは、最近よく研究分野や国連・非営利団体の活動などに反映されるようになりました。それに比べ、開発分野で働く際、女性が直面する課題を話し合い、相談できる場はほとんど存在しませんでした。そこで SRID の女性会員間の話し合いの結果、元国連本部職員の森田会員と FAO の池田会員が中心となり、こういった課題に焦点を当てたオンライン・フォーラムを開催することになりました。同フォーラムは、女性同士が話しやすい環境にするために女性限定参加となっています。これまでに開催されたフォーラムの概要は以下の通りです。

- 初回（2021 年 11 月）：「国際開発分野で働く女性の課題とマインドセット構築」と題して、3 名の現役及び元国連職員によって国際開発キャリアと私生活の両立、特に結婚・子育てと仕事のワーク・ライフ・バランス及び遠距離恋愛・遠距離結婚、女性が開発現場に行く際の心得、異文化間の女性の立場の違いなどの体験談が共有されました。初回ながら、世界中の国際機関・政府機関・民間企業などから 100 名以上が参加し、本フォーラムへの大きな期待が感じられました。
- 2 回目（2022 年 5 月）：「開発分野で活躍するための女性の分科会」というタイトルで、開催されました。初回の参加者の強い希望に応じて、ワーク・ライフ・バランス及び仕事上の女性ならではの人間関係やネットワーキングについて分科会に分かれ、参加者がそれぞれの意見や相談事を出し合う、活発な懇談会となりました。
- 3 回目（2022 年 11 月）：「女性がワーク・ライフ・バランスを保ちながら開発分野で活躍するには」と題してニューヨークの国連人口基金からマニラのアジア開発銀行に転職され、同行東京事務所長を経て副官房長に就任された児玉氏を講師としてお迎えしました。同氏がニューヨークでお生まれになった双子の子育てをしながら、いかに国際機関で昇進しながら転職・転勤をこなされてこられたか、また日本勤務も含めたキャリア・パスの中でのご体験やそこから得られた知見をざっくばらんにお話しいただいた後の懇談会となりました。
- 4 回目（2023 年 11 月）：「日本人女性の国際機関キャリア上の人間関係」をテーマに取り上げました。国際機関で長く活躍するためには、適切な自己主張、セルフ・ブランディング、ネットワークづくり等が重要です。上司を立てる、自分を押し殺して全体の調和を重視する、あえて黙っているとといった日本的行動様式が美德とは考えられません。ですから、これらの日本社会の体質に染まった働き方を長く続けていると国際機関で生き残るためのスキルは相当意識的に取り組まないと身につけません。他方、国際機関であっても東京を拠点とする事務所や在外公館のように「日本」にフォーカスした機関においては、国際機関の本部の職員や現地関係者との関係で「国際社会で生き残るためのスキル」が必要とされると同時に、「日本社会で良しとされる行動様式」が求められることも多く、そのバランスの取り方が難しいと感じられる場面が多くあると思われます。また、そうした中で女性だからこそ直面するような問題もあります。そうした特殊な環

境に置かれている女性は、どうすれば自分らしく活躍することができるのか、参加者の経験談も踏まえて意見交換がなされました。

2024 年度以降のテーマは未定ですが、常に需要があるワーク・ライフ・バランスや国際開発キャリアの職場や現場で女性が直面する人間関係などを取り上げる予定です。

### 2-2-3 出張講座

受講を希望するグループ（学生・社会人等）や団体（高校・大学・NGO 等）からの協力要請に応じ、「運営委員会」が推薦した講師が要請のあった国際開発協力に関するテーマについて出張講座を実施するものです。この活動は、学生団体への支援とともに、事業の初期に行われましたが、コロナ・パンデミックの影響を受け、近年はあまり行われていません。しかし、高校生や大学の学部生等、まだ明確なキャリア・プランを持っていない人達に対して、国際開発に関わる仕事に関心を持ってもらう事は大切なので、今後この活動を再開します。

### 2-2-4 国際協力活動を行う学生団体を含めた他団体との連携協力

国際協力活動を行う学生団体への支援は 2016 年から 2019 年にかけて実施されました。2016 年 6 月には、多国間学生交流団体（Multilateral Interaction with Students, or MIS）からの要請を受けて「プロジェクト立案と運営管理の手法」研修が開催されました。MIS が実施している国際交流活動を円滑に進めるために、受講者に実践的なプロジェクト立案と運営管理の手法を習得させることが研修の目的でした。2017 年 6 月と 7 月には、国際学生会議（International Student Conference, or ISC）からの要請を受け、英語でのプレゼンテーション研修が開催されました。ISC が 8 月に計画していた、日本人学生と海外学生の討論会に向けて実践的なプレゼンテーション能力を向上させることがこの研修の目的でした。

これらの活動は、学生団体の多国間学生交流を促進し、受講者の開発課題についての理解を深め、卒業後に国際開発の分野で働きはじめたり、SRID に加入する人達も現れ一定の成果を上げました。しかし、これらの学生団体の活動を担った人達が卒業後、それらの団体の活動が停止される等の理由で継続が難しくなったことから、2019 年度を最後として、学生団体への支援活動は終了することにしました。

### 2-2-5 広報活動 ロスターの作成・運用とキャリア開発に役立つ情報の配信

受講者のうち、希望者をロスターに登録し、国際開発関連機関の就職および就職後のキャリア開発を支援しています。IDPC やカウンセリングの受講者の大半が登録しており、ロスターを開始した 2022 年から現在までに 80 名が登録しています。登録者には IDPC・国際開発分野で働く女性フォーラム・SRID 懇談会の案内、国際機関職員のインタビュー・英文校閲のソフトの紹介等キャリア開発に有益な情報を提供するニューズレター「SRID キャリア開発」を年 2 回配信しています。

## 3. キャリア開発事業へ参加する講師のメリットと心構え

カウンセリングや IDPC を通じて、講師は個人の経験に基づいて獲得した知見を受講者と共有しますが、この過程で講師自身もメリットを受けることができます。講師が蓄積した知見は、ある時点での特殊な経験に基づく個人的なものです。開発途上国の政治・経済・社会環境は常に変化しており、生成 AI 等の技術革新により、開発課題の新たな解決手段も見つかっています。これらの変化も含め、受講者の置かれた状況は多様で、講師は自分の知見が、

それぞれの受講者の置かれている状況でも通用するかを見極める必要があります。当然ながら、国際開発関係機関を退職した講師の知見の全てがそのまま通用するものではなく、通用しないものも出てきます。講師は、これまで培ってきた知見を見直し、上述の変化に適合させる必要があります。

この知見共有プロセスは、一橋大学大学院教授の野中郁次郎氏らが提唱し、広義のナレッジ・マネジメントにおける基礎理論として用いられている SECI (Socialization Externalization Combination Internalization) モデルのプロセスと類似しています。(図 1 参照)。

講師個人の知見は、SECI モデルの暗黙知に相当し、普遍化・一般化させた知見は SECI モデルの形式知に相当します。カウンセリングは、講師の暗黙知を一旦形式知に転換し、最終的には受講者の暗黙知への転換を手助けするプロセスと言えます。講師は、自分の経験と知見を棚卸し、通用しない部分をよく認識し、どうして通用しなくなったのか、またどのようにすれば現在でも通用するようになるのかを考えて実行すれば、個人の知見の Version Up を図ることもできます。

SRID 講師がキャリア開発事業に参加する動機はそれぞれ異なります。筆者は、世界の人々、特に恵まれない社会・経済状況に置かれている人々のために仕事をしたいと真剣に考えている未知の人達と知り合えることが、キャリア開発事業の最大の特典だと思っています。

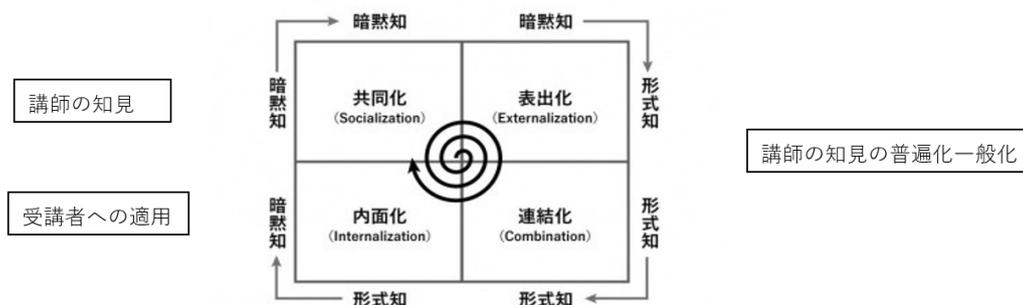


図 1 キャリア開発事業における講師の知見共有プロセスと野中郁次郎氏の SECI モデルの類似点

出典：Oricon News 2017-09-12 05:08 を基に筆者が作成

#### 4. 内外の変化と今後のキャリア開発事業の課題への対応

##### 4-1 国際開発協力を取り巻く内外の環境変化

20 世紀後半までは、国際開発業務は南北問題を先進国から開発途上国への資金と技術の移転により、開発途上国の経済成長を促進し、絶対的な貧困の解消を図るという比較的シンプルな枠組みで捉えることができたように思えます。1980 年頃から、生物多様性の危機や気候変動危機などの地球規模の環境問題が注目されるようになりました。最近では、パンデミック・地域紛争・地政学的問題が多発し、開発途上国の持続的な発展・貧困の撲滅に悪影響を与えています。

国際開発協力の担い手も、G7 や国際機関に加え、BRICS 諸国（ブラジル・ロシア・インド・中国・南アフリカ）等の新興国の経済成長に伴い、The Asian Infrastructure Investment

Bank (AIIB)等の新たな国際開発金融機関が設立され、中国は、二国間ベースでは、世界最大の援助国となりました。開発資金の流れも公的資金だけでなく、民間投融資が重要な役割を果たすようになりました。

一方、日本は1990年のバブル崩壊以来、経済低迷期に入り、GDPは世界2位から4位、一人当たりの国民所得は10位から34位、ODA供与額は世界1位から4位に後退しました。少子高齢化と労働力不足が経済活動を低迷させ、公的債務も増大し、社会福祉支出や防衛費の増大を迫られる中、ODA予算の大幅な増加は見込めない状況にあります。

また、将来の国際開発協力を担う日本の若い世代が内向きになり、海外への関心が低下しているという懸念があります。例えば、日本人の海外留学生の数は2014年に8万人を頂点に2020年には半減しました<sup>3</sup>。労働者不足で、就職に関しては売り手市場になっており、留学をしてまで語学や文化習慣の違う外国と関わる国際的な仕事に興味を示さなくなったのかもしれない。また、意欲のある優秀な女性を十分生かせず、いまだに結婚・育児かキャリア開発かの選択を迫られるようなことが多い日本の状況は、国際開発に貢献できる人材を育てる足枷になっている様に思えます。

#### 4-2 キャリア開発事業の今後の課題への対応

SRIDのキャリア開発事業も、先に述べた内外の環境変化を十分踏まえて、企画・実施することが重要と思われます。キャリア開発事業の今後の課題への対応のいくつかを以下に示します。

##### 4-2-1 複雑化し、多様な担い手が参加する、国際開発問題の解決に貢献できる専門能力を持った人材の育成

- これまで、キャリア開発事業は、国連や国際開発金融機関への就業支援業務を重点的に行ってきました。国際機関は今後も重要な役割を果たしていくと思われますが、国際機関だけでは多様で複雑な国際開発の問題を解決できないことは明らかです。国際機関は国際開発問題の解決のための重要な手段ですが、国際機関で活躍できるだけでなく、民間企業・研究機関・NGO等でも国際的な課題の解決に貢献できる人材を育成することが大切だと思われます。
- 国際開発の人材育成に関するカウンセリングや研修では、まず、経済・ファイナンス・教育・法律・環境・エンジニアリング等の特定の分野の専門家として様々な国際開発課題の解決に貢献できる専門家になるための教育機会や実務経験を積むことの重要性を受講者に伝えると同時に、開発問題は一つの領域だけでは解決できない複雑なものとなっているので、一つの分野を極めるとともに、専門分野と関係の深い分野、またIT・DX等の横断的な分野の知識を養っておく必要がある事を伝えることが重要と思われます。これまでのカウンセリングでは、受講者の志望先の国際機関を経験した講師が主に担当して来ましたが、必ずしも、志望者の専門分野と講師の専門分野が同じではないので、必要に応じて、講師以外の他のSRID会員や会員以外の専門家の協力を得たいと思います。

<sup>3</sup> 留学生の数は、コロナ・パンデミックの始まる前から、減少傾向を示し、コロナ・パンデミックがその傾向に拍車をかけたと言えます。

- 国際機関には Junior Professional Officer (JPO) Program や Young Professional Program (YPP) のような 30 代前半までの人を対象とした採用制度があり、若い人達にはどんどん挑戦してもらいたいと思っています。しかし、JPO や YPP で国際機関に就職する人はごく少数です。国際機関では実務経験を積んだ、即戦力になる専門家を必要としているので、大多数は中途採用で 30 代後半から 50 代にかけて採用されることとなります。国際機関の採用は、いつそのチャンスが巡ってくるかはわかりません。したがって、国際機関での就業を目指す人達は、まずキャリアを積んでいきたい専門領域を見つけ、国際機関での就業のチャンスを待つ間に官民で専門性を高め、実務経験を積むといった長期的で辛抱強いキャリア形成をしていく必要があるでしょう。そのような人達を念頭に置いた支援をすることが大切と思われます。
- 国際機関は国連機関と国際開発金融機関というグループに大別されます。しかし、政治と経済・社会・環境問題が密接に絡みあっているため、国際政治や国際公共財に関する国際的理念やルール作り、国際協調促進を主に担当する国連と、それらの理念やルールの実現に必要な資金の調達や大規模なプログラムやプロジェクトの実施を得意とする国際開発金融機関は、これまでの枠組みを超えて、密接に連携協力する必要があります。例えば、世界銀行の 2024 年度の「脆弱および紛争影響状況」報告によれば、アフリカや中近東地域を中心に、開発途上国の多くが、紛争地域国（19 ヶ国）もしくは、制度的及び社会的に脆弱国（20 ヶ国）と報告されています。これらの国々への支援には、国連と国際開発金融機関が連携した協力が不可欠です。国連と国際開発金融機関の職員が同じプログラムやプロジェクトに参加したり、国連職員が国際開発金融機関へ転出するケース、またその逆もあります。このような状況を踏まえ、今後の IDPC は国連機関と国際開発金融機関の両方を同じコースで扱い、受講者に両グループの特性と相互補完性をよく理解してもらう事を目指します。

#### 4-2-2 多様な国際開発人材の発掘・育成

- 海外志向の若い世代が減少すれば、国際機関も含めて国際開発分野のキャリアを目指す人達も減少すると思われます。キャリア開発事業の受講者の大半を占める大学院生や社会人に加え、将来の進路を決める時期にある、高校生や学部 1 年生 2 年生に、国際的な事に関心を持ってもらい、国際機関も含む開発の分野のキャリアについて考えてもらう機会を作っていきたいと思っています。
- キャリア開発事業ロスター登録者のうち、約 6 割が女性の受講者です。2021 年末時点で、国連関係機関における日本人職員数 956 名（専門職以上）のうち女性は 61.5%にあたります（外務省報道発表：国連関係機関における日本人職員、令和 4 年 8 月 30 日）。これは、日本の「ジェンダー・ギャップ指数」が世界 156 カ国中 120 位と、女性が活躍できる職場環境が整っていない事とも関係しているように思われます。「国際開発分野で働く女性のためのフォーラム」を継続するとともに、SRID の女性会員の協力を得て、女性講師を増やし、女性ならではの課題を克服しつつ、国際的な国際開発分野で働く女性のキャリア形成の支援をしていきたいと考えています。
- キャリア開発は、就業から退職、退職後という長いスパンをまたぐものです。国際機関の定年退職年齢も、かつては 60 代前半でしたが、近年では 65 歳から 67 歳ぐらいとなり、恐らく将来は 70 歳ぐらいになるのではないかと思います。そうすると、50 歳ぐらいまで民間や学界で専門家として活躍した国際経験が豊富な人が、50 歳代で国際機関

に就職することも可能になります。若い人達のみならず、中途採用で国際機関に転職を希望する年配の世代の人達も支援していきたいと思います。

- 第4回 IDPC で初めて外国人受講生を受け入れましたが、大半が日本の大学・大学院で学んだ、開発途上国の留学生もしくは卒業生でした。人口減少が続く中、日本で学んだ外国人受講生にこのような機会を与えることは日本のためにもなると思われれます。国際機関は開発途上国の経済・社会発展を支援していますが、開発途上国の人達の国際機関就業を支援するような研修は特には提供していません。その意味でも、IDPC はユニークなプログラムと言えるでしょう。今後も IDPC に日本人以外の受講生を受け入れていきたいと思っています。

## 5. 結び

SRID キャリア開発事業が開始されてからわずか8年ですが、受講者の中から国際機関に就業された方も何人か出てきています。また、まだ少数ですが、その中から SRID に入会しキャリア開発事業に講師として参加してくれる若手会員も出てきています。キャリア開発事業がこのような成果を上げることができるのは、ボランティアとして事業を支えて頂いているキャリア開発事業運営委員と講師をはじめ、その他の SRID 会員、国際機関や日本の教育機関の皆様から多大なご支援をいただいているおかげです。誌面を借りて皆様に深く御礼申し上げますとともに、今後とも引き続き SRID キャリア開発事業をご支援いただきますよう心よりお願い申し上げます。